

令和7年度第1回佐伯市総合教育会議議事要旨

1 日 時 令和7年8月20日（水）14時00分～15時47分

2 場 所 佐伯市役所本庁舎6階 第1委員会室

3 出席者（会議の構成員）

佐伯市長 富高 国子 教 育 長 宗岡 功
教 育 委 員 平井 國政 教 育 委 員 山口 清一郎
教 育 委 員 藤崎 郁 教 育 委 員 廣田 有加

（関 係 者）

本匠中学校区学校運営協議会長 三原 信行
佐伯市地域学校協働活動推進員 川野 敦子
本匠地域コミュニティ協議会副会長 武末 達三

（教 育 委 員 会）

教 育 部 長 久々宮 克也
学校教育課長 柳井 慎也
佐伯市立本匠小学校長 足利 光保
佐伯市立本匠中学校長 高野 徹

（関 係 課）

地域振興部長 吉岡 健児 コミュニティ創生課長 安藤 正充
地域振興課長 徳丸 伸一 本匠振興局長 川野 眞司

（事 務 局）

総合政策部長 植田 実
政策企画課長 末永 健二 総括主幹 大江 定仁

4 要旨

次第1 開会	
末永課長	（開始 14時00分） ただいまから令和7年度第1回佐伯市総合教育会議を開催する。
次第2 市長あいさつ	
市 長	今回で第19回目の開催となる佐伯市総合教育会議に、お忙しい中お集まりいただき、感謝申し上げます。日頃ご尽力いただき、子どもたちを守り、頑張ってくださっている関係者の皆さんがたくさんお集まりいただき感謝している。本日の議題である「地域で育む小規模特認校（本匠小・中学校）」について議論を深めたい。私の市政の柱としても、教育と福祉の充実を掲げている。「いつも こどもが まんなか」という基本姿勢を忘れずに、子どもたちに豊かな教育を提供し、それとともに地域が活性化して、良い佐伯のまちとなることを願っている。皆さんにはたくさんのご意見を出していただきたい。

次第３議事	
市 長	本日の議題は、地域で育む小規模特認校についてである。まず初めに、本匠小学校と本匠中学校の小規模特認校の指定について、教育委員会学校教育課の柳井課長、本匠小学校の足利校長、本匠中学校の高野校長から順にご説明いただく。続いて、小規模特認校の指定と関連がある本市の移住支援について、地域振興課の徳丸課長から説明がある。すべての説明が終了した後に、委員の皆様と本日ご出席の皆様からご質問やご意見をいただきたい。それでは、学校教育課の柳井課長から、本匠小学校と本匠中学校の小規模特認校の指定について、ご説明をお願いしたい。
柳井課長	<小規模特認校についてと、小規模特認校指定までの経緯、本匠小学校・中学校の小規模特認校指定に係る概要について説明>
足利校長	<本匠小学校の取組について説明>
高野校長	<本匠中学校の取組について説明>
徳丸課長	<本市の移住施策について説明> (休憩)
次第４意見交換	
市 長	それでは意見交換に入る。まず先ほどの小規模特認校の指定、それから本市の移住施策について、ご質問やご意見を伺いたい。
山口委員	佐伯市では人口減少に伴う学校の統廃合が進んでおり、教育委員会は小規模特認校制度の導入を検討している。しかし、本匠小・中学校への通学には時間がかかり、交通インフラの整備が必要とされている。特に、父母が送迎する負担を軽減するためのコミュニティバスの導入が求められている。例えば、さいき城山桜ホールを送迎の拠点とし、親が子どもをさいき城山桜ホールに送り、そこから子どもたちはバスで本匠小・中学校まで行くという仕組みはどうか。また、帰りはその逆も考えられている。 また、県外からの移住促進策として、民泊や山村留学施設の整備が必要であり、魅力的なカリキュラムの提供が進学率向上に寄与すると考えられている。教育プログラムの柔軟性と進学に対するポテンシャルを高めるため、教育の高度化を目指す取組が重要である。以上２点について市の意見を伺いたい。
吉岡部長	区域外からの送迎は大きな課題となっており、コミュニティバスの臨時便の導入が検討されているが、現時点では難しいと考えている。また、山間部ではデマンド型のコミュニティバスが運用されている。送迎に関する運行状況はまだ把握されておらず、教育委員会と地域振興部が協議し、円滑な運行を目指す

	ことが課題として認識している。民泊や山村留学施設については、空き家バンクを活用した情報発信が行われており、市独自の施設はないため、親の就労に関連する情報提供を進める方針である。
徳丸課長	吉岡部長の発言に、補足をする。コミュニティバスの対応について、佐伯市では定時定路線とデマンド方式が導入されている。本匠、弥生、直川、宇目地域がデマンド方式で、前日に予約することで利用可能のため、弥生と本匠エリア内からの通学には問題ない。しかし、市内から弥生までのバス便がない状況である。通学への対応はできる限り行っているが、地域によって路線に差があり、学生にとって便が悪いことが問題である。このため、コミュニティバスで対応できない部分については他の方法を検討する必要がある、今後の課題としている。
柳井課長	学習指導要領に基づき、各学年の学習内容が決められているため、委員が指摘した対応は難しいと考えられる。また、私立の中高一貫校では対応事例があるが、教育課程の特例を検討する必要があると思われる。特色をどれだけ出せるかについても、今後研究すべき課題である。
高野校長	学習対策についてはしっかりと行われていると考えられており、特色ある活動や個別支援が実施されている。現在、本匠中学校の子どもたちは第1志望の高校に合格しており、学力も大体の全国平均を上回っている。引き続き学力向上に努める考えである。高校に入るレベルの学力を身につけることは可能であると考えており、教育課程がその支えになると思われる。 また、本匠小・中学校を含む佐伯市内の全ての学校は、10年後、20年後、30年後の子どもたちがどのように生きるかを見据え、そのための力をつける教育を目指しているという願いがある。
山口委員	小規模特認校は、全国的にも増加している。少子化が影響している中で、教育の特徴や魅力を持たない限り、親が子どもを就学させることは難しい。単に偏差値を上げるだけでは不十分であり、独自性や特色を持った教育内容が求められる。学校の制度や特性がない限り、生徒が集まらないため、その重要性について強調したいという意味で質問をさせていただいた。
平井委員	私が仮に小学生と中学生の子どもがいた場合、普通の子であれば特に気にしないが、不登校や障がいがある場合には本匠小・中学校に通学を考えるかもしれないと思った。親としては、子どものために遠い場所でも無理をしてでも教育環境を整えたいと思う。しかし、そうした子どもたちが一堂に集まった場合、学校側の受け入れ体制に問題が出てくると思われる。それについての考えや、他の特認校での状況についてもお聞きしたい。
柳井課長	他市の状況を聞く中で、特別な支援を要する子どもが若干増えたとの話がある。しかし、様々な子どもがいる中で、大規模な環境では苦手意識が強まるが、自然豊かで少人数の中では自分らしく学べる可能性がある。本匠で学びたいという子どもが来てくれることを期待している。人的や環境的な部分の整備が必要であると考えている。募集期間は11月から12月で、早めに希望を集め、それに基づいて体制を考えながら進めているところである。

平井委員	校長との面談があるが、その目的は何か。
柳井課長	学校を選んだ理由や状況をしっかり把握することが目的である。その後、学校がどのように対応していく必要があるかを理解するために、単に書類を1枚出すだけでは不十分であり、具体的な状況を把握する必要があるため、面談が行われる形になっている。
平井委員	基本的に入学を断る場合はないのか。
柳井課長	希望者が出る可能性がある中で、想定外の状況になると誰でも受け入れられるわけではないかもしれない。他市では小規模の良さを生かすため、他の地区では15人を超えない人数制限を設けている場合もある。状況を見ながら判断していく必要があると考えている。
平井委員	最近の移住の取組についてお尋ねしたいが、推移表を見るとかなりの人数が維持されているようである。この移住された方々は現在も佐伯市に在住しているのか。
徳丸課長	移住に関しては、補助金を利用している方については、採決で把握できるが、補助金がない方についても、佐伯市や大分県の窓口で5年以内在住する希望がある方をカウントしているので、基本的には移住者は一定の期間住んでいる前提である。ただし、急な事情で出て行く方もいるが、一定程度の移住者がいるという認識を持っている。
教 育 長	小規模特認校については、障がいのある子どもや不登校の子どもが対象になるのではないかと考える人もいるが、実際の目的は、少子化に伴う学校統廃合に対する選択肢を増やすことである。現在、大規模な学校ばかりになる中で、集団に馴染めない子どもたちが悩んでいる状況があるため、それに応じた学校を設けることを目指している。特別な子どものための学校ではなく、個々の能力に応じた学習を進める方針である。 また、佐伯市の移住のHPについて、2点お願いがある。1点目は、佐伯暮らしな日”（ナビ）のHPに小規模特認校の紹介をしてほしい。2点目は、移住促進ガイドブックに中学校での給食の無償化の紹介をしてほしい。
徳丸課長	教育に関する情報を追加できるかについては、検討したいと考えているが、具体的な形については今後考慮する予定である。また、移住促進ガイドブックについては、1,000部を発行し、現在残り600部程度となっている。佐伯市と民間会社と連携して作成されたこの冊子は、2年間利用する予定のため、更新は難しいと考えている。
藤崎委員	興味深い取組であり、もし私が子どもであればその学校に通ってみたいと思うが、親の価値観や好みが子どもの選択に強く影響するのではないかと考えている。親は自分の子どもに対して独特のコミュニティで育てたいと思うが、その結果、少数の人々との密な関係が生まれると、特定の価値観で子どもが縛られる可能性があるかと懸念している。そのため、子どもが自分の気持ちを表現できず逃げ場なくなることが心配であり、先進的な教育に適應できない子どももいるのではないかと感じている。
高野校長	一人一人の気持ちや考えを尊重しつつ、自己選択と自己決定を重視してい

	る。そのため、語りたくない子や一緒にしたくない子の気持ちも大切にし、主体性や当事者性を高めることを目指して学校教育全体を進めている。
藤崎委員	自己決定を尊重することが重要であるが、時には「今日はその決定を保留する」ことも理解されるべきである。教える側から見ると、主体性を促すことが求められる場面もあるが、その選択を許すことも大切であると考えられる。
高野校長	その通りである。対話を重視し、教員が子どもの気持ちに寄り添いながら話を聞くことで、理解を深めていく形で進んでいると考えている。その心配は、状況に応じて子どもの様子を見ながら進めていくと考えている。
山口委員	藤崎委員がおっしゃった内容に追加すると、プライベートな個性を持った生徒が小規模特認校に入ると、そのコミュニケーションが密になり、良い方向に進む可能性がある一方で、逆の影響もあると指摘している。小規模な環境では、生徒が他の関係性の中で選択を迫られ、その結果が悪循環を生む可能性もある。特に、プライベートな側面が課題となった場合、生徒に逃げ場がなくなり、全体に影響を及ぼすことが懸念されるため、その対処法について考える必要がある。
足利校長	小規模特認校は生徒数が少ないため、友達関係の問題が生じた際に他の友達に頼ることが難しいが、教職員が生徒に寄り添うことは他校よりも容易である。各学年の生徒数が10人未満であるため、子どもたちの思いを十分に聞くことができる環境が整っている。
山口委員	小規模校特認校に個性をもった生徒が入ることで、今までとは異なる新たな課題が出てくるかもしれないため、その対処法を考える必要があると考えている。
高野校長	山口委員が述べたように、全体の中で個々の自由を尊重し、お互いに承認し合う関係が大切である。子どもたちが多様性を受け入れることで、様々な視点や考え方が広がり、現在の生徒たちにとっても良い影響を与えていると考えている。小規模特認校に小どもたちが通うことによって、本匠はさらに良くなると期待している。
市 長	今回は委員の皆様に加えて、本匠地域の地域づくりや学校運営に尽力されている方々が出席している。まず、中学校区学校運営協議会の三原会長から意見をいただきたい。
三原会長	教育委員から貴重な意見をいただいたことに感謝している。小規模校特認校の指定に向けて協議を重ね、行政へ要望書を提出したところ、今後の日程が決まっているが、具体的な回答が得られていない。そのため、地域の魅力や助成制度についての情報が不足しており、保護者や生徒に失礼にあたると感じている。間もなく生徒の募集を行うため、早急に明確な施策を打ち出し、魅力的な学校として説明できるように行政の支援を求めている。予算の裏付けが必要であることを理解しているが、状況は急を要しているため、力添えをお願いしたい。
高野校長	三原会長が指摘したように、学校説明会への申し込みが保護者からいくつか入っているが、保護者が最も気にしているのは交通インフラである。送迎の有

	無についての返答がないと、保護者は安心して応募できないため、説明会でその点をしっかりと説明することが重要であると考えている。
武末副会長	過去の経緯として、本匠西小学校と本匠東小学校が統合されたのは20年前であり、その際に保護者への説明会や情報伝達が困難であった。教育委員会との対話や要望、スクールバスについての調整を行い、地域との協力が重要である。保護者のOBとしての役割を果たし、子どもたちに素晴らしい教育環境を提供する取組を支持したいと考えている。また、実際に行動することで問題解決を図り、それを通じて子どもたちの健全な成長を促進したいと願っている。今後とも地域とともに取り組む意欲を示している。
川野推進員	通学手段に関して、徳丸課長からコミュニティバスが対応できない部分への前向きな提案を受けたので、今後の協議や展開について、いつ頃お知らせできるのか。
徳丸課長	コミュニティバスについて、通学の要望が以前にあったことを確認しているが、具体的な生徒数が不明なため、運行計画の変更が難しい状況である。路線バスが廃止された経緯があるものの、デマンドバスの便利さが評価される声もある。しかし、現在のコミュニティバスでは市外からの対応ができていないため、スクールバスやスクールタクシーの選択肢を検討する必要がある。公共交通の担当者として、通学が難しい状況を改善するために市全体での対応を進める意向を示し、教育委員会と連携しながら問題解決に取り組む姿勢である。
久々宮部長	全方位からの学校受け入れを考慮すると、特定区間のみのスクールバス運行は難しいと考えている。スクールバス利用者が増えればありがたいが、予算的な裏付けがないため明確な回答ができないことを申し訳なく思う。しかし、ほんじょうこども園の過去3年間のデータを基に、ほんじょうこども園に通う子どもたちの多くが佐伯市内から送迎されており、教育内容が充実すればより多くの親が通わせる可能性があると考えている。また、小規模特認校の存続を長期的に考え、子どもたちに熱中体験を提供し、それが将来の財産になることを目指している。学力だけでなく、非認知能力も育成できる学校を広くアピールし、将来的な展望を示していく意向を持っている。教育委員会としての支援も検討していく考えである。
教 育 長	初めての取組に不安があるが、他県の成功事例として、鹿児島県の志布志市や佐賀県の基山町では、区外からの子どもたちが生き生きと活動している。先進地の学校視察を通じて抱えている課題を学びたいと考えている。佐伯市からも参加し、直接地域との対話を行うことが重要であるため、視察に行く際はぜひ参加をしてほしい。
川野推進員	スクールタクシーやスクールバスの手配がいつ頃可能になるのか。
吉岡部長	先ほど徳丸課長が述べたように、公共交通としてのコミュニティバス運行には、運輸局への届け出や手続きが必要であり、実施が難しい状況である。小規模特認校にどのような方が入るかはまだ不明であり、具体的な情報は提供できない。スクールタクシーのような個別施策については、教育委員会とともに考えていく意向であるが、実施時期については現時点では明確に答えられない。

川野推進員	小規模特認校については、令和5年度から進めてきたことであり、校長先生からの話にあるように、市内や県内、九州各県、日本全国からの児童生徒が対象であるため、早期に前向きな検討をお願いしたい。
市 長	少なくとも説明会前には、学校が説明する際に困らないように、みんなで考えていきたいと思っている。せっかく学校が市外、県外まで、大きな規模で言ってくださっているのに、その熱意に応え、市がしっかりと困らずに説明ができる体制を整え、希望する方に選んでもらえるようにする必要がある。みんなで全力を挙げて、早めに取り組んでいきたいと思っている。
足利校長	市長の力強い言葉に感謝申し上げる。現在の状況では、佐伯市の小規模特認校への就学に関して、柳井課長の説明によると、佐伯市立学校小規模特認校への就学等に関する要綱の第4条の（3）に、「保護者の責任と負担において、安全な交通手段により児童・生徒を通学させること。」と記載されているため、明後日の説明会では学校がその旨を説明することになる。その上で、今日の会議を踏まえて何らかの手立てを講じる意向があることを保護者に伝えても問題ないか。
市 長	支援を行う方針であるが、全てが無料で提供されるわけではない。保護者の責任範囲内で努力しつつ、安心して来てもらうための支援の準備が必要であると考えている。
教 育 長	保護者から意見があれば、通学の方法についても前向きに検討する意向であることを、明日の説明でその旨を伝えてほしい。また、さいき城山桜ホールからの運行支援を検討するが、予算の承認が必要なため、具体的な決定は難しい状況である。
三原会長	現在の問題に対して前向きな答弁をいただいたため、学校側も安心していると思われる。しかし、今後中長期的には、本匠の魅力や特化した要素がなければ、保護者が手を挙げるのが難しいと考えている。そのため、本匠地域独自の強みや他地域との差別化を図る施策を提案してほしい。例えば、移住者に土地を無償提供するなど、教育活動以外でも支援が可能な要素を打ち出してもらいたいと考えている。
山口委員	朝の新聞を読んでいたところ、和食を食べる人には抑うつ効果が高いという臨床データが掲載されていた。また、お茶が特に抑うつ効果が高いとされており、茶の多様化を進めて抑うつ効果に対応してもらいたいと考えている。
市 長	委員の皆様や関係者の皆様に長時間の意見交換をいただき感謝申し上げます。小規模特認校だけでなく、佐伯市内の全ての小学校、中学校、幼稚園が明日も続けられるよう願っている。また、今後も支援や指導、意見をお願いしたい。本日の会議をこれで閉会する。皆さま本日はお疲れ様でした。 (終了 15時47分)